

# 知的財産推進計画2026：経営戦略の「中核」へ——知財・無形資産が切り拓く企業の勝ち筋

## 経営に求められるパラダイムシフト



### 「守りの知財」

知財をコストではなく、企業の「稼ぐ力」と成長の源泉として経営戦略のど真ん中に据える。



### 「価値創造の中核」



### 日米の無形資産比率の格差

日本企業の時価総額に占める無形資産割合は依然として低く、投資と開示の強化が不可欠。



### 知財ガバナンスの「形式から実質へ」

改訂CGコード原則4-1に基づき、知財投資が企業価値向上にどう繋がるか「具体的に」説明する責務が生じる。

## 変革を阻む「3つのボトルネック」と解消法



中長期の「成功のタネ」を追えていない



担当CxOの配置と中計アジェンダへの組み入れ



オープン&クローズ戦略の設計不足



事業プロセスを細分化し、差別化要素を可視化する



短期的な利益悪化に見える「ジレンマ」



投資効果を時間軸に沿った因果関係とKPIで可視化

## 2027年7月に向けたアクション・ロードマップ



**第1段階(即時)：自社診断と体制整備**  
5つのボトルネック診断の実施、担当CxOの配置、知財と経営企画の人的交流を開始する。



**第2段階(～2027.7)：開示ストーリーの構築**  
CG報告書の提出期限に向け、知財と企業価値を結ぶ「独自の物語」と言語化を完了させる。



**第3段階(継続)：攻めの知財活用とリスク管理**  
IPランドスケープによる「勝ち筋」特定、AIガバナンス、経済安全保障に伴う情報流出対策の常態化。